

キャリア教育で子どもたちの未来づくり

はぐくみ先生の児童・生徒に対する思い(伝えたいことや願い)



今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、小学校の「社会見学」「匠のWAZA」、中学校の「職場体験」「郷土の先輩」等が2学期以降の実施になっています。(コロナ禍の状況によっては、中止もありえます。)そのため、取り組みのようすは、今後の紹介となりますので、今回は、「はぐくみ先生」の児童・生徒への思いを、お知らせします。

【八百屋業をされているはぐくみ先生】

私は豊後大野市に生まれ、都会で社会を経験(仕事)し、再び豊後大野市で仕事をするを選んだ。会社経営には「ヒト・モノ・カネ・情報」が必要とされる。田舎は都会に比べ「ヒト・カネ・情報」は少ないけれども、「モノ(農作物)」は豊富にある。そこにビジネスのチャンスを感じ、八百屋経営の道を選んだ。

まだまだ道半ばの私が偉そう言えることといえば『失敗の数は多いほど良い』ってこと。私はたくさん失敗し、怒られ、周りに迷惑をかけてきた。そこから多くを学び、今では人よりも現実をクリアに見る能力を手に入れた。失敗は『行動』した結果で、決して悪いことではない。自分の行動の先に、夢や理想はあるんじゃないかな。

【調理師をされているはぐくみ先生】

自分は、いつも調理師の仕事を「やめたい」と思ってやってきた。それでも、今まで続けてきたのは、評価と応援をしてくれるお客さんの存在があるからである。いやなことがあっても支えられて続けてきたから今の自分がある。

今の子どもたちは、日常の中でいろんなことを経験することが少なくなっている。知る機会が奪われていると思う。「匠のWAZA」を通して、包丁を使う経験から子どもたちの可能性を広げられたらと思っている。いろんなことを経験してから「何をしたいか」を見つめてほしい。また、食は「生きるエネルギー」と直結する。食の意味、食の大切さを考える機会を提供したい。

【介護福祉士をされているはぐくみ先生】

「介護の仕事は、大変でしょ。私にはできない。」と言われることがある。私自身も、若い頃は介護という仕事を知らなかった。でも、人が生活していくためには、必要で大切な仕事。専門的には、「本人の気持ちを尊重しながら、その人らしく自立した生活ができるように、身体面や家事などの支援をする」仕事。毎日の生活の中にも、無意識のうちにまわりの人を介護していることもある。

子どもたちには、簡単な実技(ワークショップ)等を通して、「介護ってこんなことなんだ。大変な時もあるけど、楽しいこともある。」ということを知ってほしい。感じてほしい。そして、高齢者や体の不自由な方、困っている方々にさりげなく、やさしく、手を差し伸べられる人になってほしい。願わくば、将来、介護の仕事についてほしい。

以上のような思いをもって「はぐくみ先生」は、子どもたちと向き合ってくれます。子どもたちも、「はぐくみ先生」の言葉や姿を通して、多くのことを学んでくれることと思います。